



兵庫県遊技業協同組合

「兵遊協／障害者ぬくもり応援団」を中心とした  
障害福祉活動の推進」事業



兵庫県遊技業協同組合  
理事長  
米田義一さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員長代行  
脇田直枝氏



兵庫県と連動しての「兵遊協／障害者ぬくもり応援団」は、授産商品の販路拡大や商品開発を支援すると共に、働く機会を障がい者に提供して地域での自立を支援していること。また、長年にわたって要介護者外出支援事業として福祉車両を寄贈、さらに「全国車いすマラソン大会」、「こうべ障害者音楽フェア」などの支援を通じて弱者のためのスポーツ振興、文化育成といった社会参加の機会を提供している。そのさまざまな活動は市民企業として広く県民に認知されており、満場一致で社会貢献大賞に推挙された。

ユニバーサル社会を目指して  
障がい者の就労・自立を支える

ひょうご障害者ぬくもり応援団に参画

2013年4月、ひとつの法律が施行された。「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達」の推進等に関する法律」、いわゆる「障害者優先調達推進法」と呼ばれるもので、障がい者就労施設などの受注の機会を確保するために必要な事項を定めることにより、障がい者就労施設などが供給する物品に対する需要の増進を図り、そうした施設で就労する障がい者や在宅障がい者などの自立の促進に資することが目的に掲げられている。

障がいを持つ人も、そうでない人も、誰もが暮らしやすいユニバーサル社会を目指すことは、よりよい社会を築くうえで欠かせないことである。そのためには、社会に生きる個人はもとより、そこで企業活動を営む組織や団体も、ひとつの社会的責任として取り組まなくてはならないことはいまでもない。そうでなければ、せっかく崇高な理念を掲げて制定された法律も、絵に描いた餅になりかねない。

この法律の施行を受け、兵庫県では、「ひょうご障害者ぬくもり応援団」を発足させた。これは、障がい者就労支援施設で働く障がい者に対する理解の促進を図り、そこで得られる障がい者の工賃のアップや障がい者の地域での自立を支援するためのもので、いわゆる授産商品の販路拡大に係るイベントなどの情報収集や発信、施設からの物品や役務の調達の促進、障がい者の就労促進などに取り組むことを目指している。その構成団体のひとつとして、兵庫県から兵庫県遊技業協同組合(以下、兵遊協)に対して参加の打診があったことから、兵遊協では、そこに参画するとともに、自らも「兵遊協／障害者ぬくもり応援団」を組織し、兵庫県と協働して、障がい福祉活動にこれまで以上に積極的に取り組むことにした。

端玉賞品への授産商品の積極的な採用

そもそも兵遊協が、「ひょうご障害者ぬくもり応援団」への参画を打診されたのは、これまで積み上げてきた実

績があるからである。兵遊協では、障がい者就労施設や小規模作業所などで製造されるクッキーなどの授産商品を活用することが社会福祉に貢献するという認識のもと、青年部会が中心となって、2002年から授産商品をホルの端玉賞品として積極的に採用するように促す活動を続けている。

この活動のきっかけは、障がいを持つ人々が働く施設・作業所の手作り商品を専門に扱うショップ「神戸ふれあい工房」(神戸市社会福祉協議会・兵庫セルフセンター運営)の商品カタログを渡され、活用を依頼されたことで、青年部会、神戸市社協、ふれあい工房に、賞品類をホールに卸す(株)兵栄を加えて協議を続け、青年部会員の各ホールを中心に端玉賞品として授産商品を採用していこうと始まったものである。(株)兵栄は賞品類をホールに搬送する際に、ボランティアとして注文のあった授産商品と一緒に運ぶことに協力している。2008年からは青年部会のこの活動に兵遊協も協力し、組合全体として取り組んでいるが、それが好結果をもたらし、スタート当初は13ホールだった協力ホールが、現在では41ホールと3倍強に増え、それに伴うふれあい工房の売り上げも当初の123万円から、昨年は約545万円と4倍以上に増加し、工房全体の年間売り上げの約1/4を占めるまでになったという。



兵庫県健康福祉部による授産商品採用促進説明会の様子

兵遊協が神戸ふれあい工房から直接、授産商品を仕入れるのではなく、賞品卸業者の(株)兵栄に各ホールが注文し、そこを通して仕入れるという形を取ることで、業界として「買ってあげる」のではなく、あくまでも賞品の1カテゴリーとして扱うことになり、それが授産施設で働く障がい者に社会の一員として認められているという喜びをもたらすことになる。また、兵遊協および青年部会では、授産商品の商品開発に関する提案も積極的に行っている。そうした積み重ねもあり、クッキー、飴、せんべいなどの従来品に加え、最近では入浴剤、油取り紙、マグネット、アクリルたわしなどの雑貨や家庭用品にまでとラインナップも広がりがつつある。

「兵遊協／障害者ぬくもり応援団」の活動

こうした実績を背景に、昨年、「兵遊協／障害者ぬくもり応援団」は立ち上がったが、今後の具体的な活動や目標としては、端玉賞品への授産商品のさらなる導入を促進することはもちろん、これまで神戸ふれあい工房を通じて神戸市内にある障がい者就労施設や小規模作業所に限られていた仕入れ先を、兵庫県下全域にある施設に拡大していくことを掲げている。すでに豊岡市や川西市にある施設からの仕入れが始まっているほか、今年度は姫路市や加古川市にある施設からも授産商品を仕入れる



授産施設の商品を扱う神戸ふれあい工房を支援している兵遊協





「第5回はあ〜とふるふあんどフェスタ」の様子。会場中央に障がい者施設の販売ブースが設けられた



障がい者と健常者のふれあい交流として披露されたダンス



ろうあ団体による力強い太鼓の披露

ことになっている。

また、2005年から青年部会が中心となって開催されている障がい者(児)と、みんなが一緒になって楽しむイベント「はあ〜とふるふあんどフェスタ」においては、障がい者施設に販売ブースを提供している。昨年12月に行われた「第5回はあ〜とふるふあんどフェスタ」では、12の障がい者施設が出店したが、試食用として商品を買上げたり、青年部会のメンバーが自ら売り子になったり、商品にイベントの最後に行われる豪華賞品が当たる抽選会

に参加できる抽選券をつけたりして、売り上げアップに協力した。「自分たちが作ったものが売れることを知れば、それが喜びとなって、一層、作業に熱心に取り組むようになる。そうした喜びにつながったり、作業に励む動機となったりするような支援が今後必要だと思っています」と、兵遊協事務局の青年部会担当者は語る。

さらに昨年は、授産商品(お菓子類)のレベルアップを図り、障がいのある方々の工賃アップや授産商品の販路拡大を目指すために兵庫セルフセンターが行っているコ

ンテスト「スイーツ甲子園」を後援の一団体として支援した。このコンテストには、兵庫県をはじめとする12府県から12商品が出品されたが、今回は神戸元町商店街連合会の協力もあり、一般参加者による試食と人気投票も行われ、広く一般消費者に授産商品のPRを図ることができた。こうした試みが、端玉賞品としての授産商品のレベルアップやバリエーションの広がりを生み出し、さらなる採用につながっていくことが期待される。

### 福祉車両の寄贈とさまざまな財政支援

以上のほかにも、障がい福祉活動を支援する事業として兵遊協が継続して取り組んでいるのが、要介護者の外出などに使用される車両「兵庫県はあ〜とふる福祉号」の寄贈事業である。これは2003年から続けられているもので、現在までに合計144台が贈られている。昨年は3台が福祉団体に寄贈されたが、そのうちの1台として軽4輪貨物自動車、尼崎市にある障がい者就労支援事業所に贈られた。この車両は授産商品の運搬などに使用されており、障がい者の就業や自立支援に役立てられている。車両の寄贈にあたっては、寄贈先での使用用途や目的を

ヒアリングし、それに合わせたものを贈るようにしているということで、寄贈先からは感謝の声が数多く寄せられている。

さらに財政支援として、昨年7月には、兵庫県肢体不自由児者協会が障がい者と大学生との触れ合いを目的に開催した「ふれあい交流会」の開催費用10万円を支援したほか、9月には兵庫県障害者スポーツ協会が毎年、開催している「全国車いすマラソン大会」の運営資金として150万円を支援した。また、12月には、「こうべ障害者音楽フェア2013 ジョイントコンサート」の開催に伴い、同実行委員会に10万円を寄付した。

兵遊協では、組合運営の柱のひとつに「社会貢献活動を通じた地域社会との共生」を掲げているが、障がい者への支援がどうしても後回しになっている現状を少しでも改善し、支援の手が届けられるように、他業界に率先してさまざまな活動に取り組んでいる。こうした活動が遊技業界に対する社会の認知や信頼を醸成することは間違いないことであり、今後も障がい福祉活動の推進に努力していくという。



2003年から続けられている福祉団体への車両の寄贈事業



毎年、盛大に行われる「全国車いすマラソン大会」を支援

